

# 特別の教科 道徳 学習指導案

第1学年

- 1 主題名 「心の弱さを乗り越えるために」 (中心内容項目 D22:よりよく生きる喜び)  
(関連内容項目 A1:自主、自律、責任と自由)

資料名 「銀色のシャープペンシル」(出典:「新しい道徳1」東京書籍)

## 2 主題設定の理由

### (1) 学びのつながり

主題は、学習指導要領「特別の教科 道徳」の内容「D よりよく生きる喜び」の「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることにより喜びを見いだすこと。」に基づいたものである。

小学校 高学年	よりよく生きる喜び	よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。
中学校	よりよく生きる喜び	人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることにより喜びを見いだすこと。

小学校の段階では、今回の改訂で高学年に初めてこのよう内容項目が置かれた。そのため、発達段階に応じた指導内容と方法について工夫を重ねながら、自分を高め、身近な仲間と良い関係を築き、人間としての強さや気高さを身に付けて生きようとするについて学習してきた。

中学校の段階では、人間が内に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せもつことを理解できるようになってくる。しかし、なかなか自信がもてずに、劣等感にさいなまれたり、人を妬み、恨み、うらやましく思ったりすることもある。学年が上がるにつれ、崇高な人生を送りたいという人間のもつ気高さを追い求める心が強くなる。自分を含め、人間に絶望することなく、誰に対しても人間としてのよさを見いだしていこうとする態度が育ってくる。

ここでは、資料「銀色のシャープペンシル」を活用し、自分だけが弱いのではないということに気付かせるとともに、弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さを対比させたりすることで終わることなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近づけることに目を向けられるようにする。また、現在の自分を見つめ直し、よりよく生きることについて考えさせ、前向きな取組を繰り返すことで、よりよく生きる喜びを見いだそうとする意欲をもつことが大切であることを捉えさせたい。

### (2) ねらいとする道徳的価値について

中学生の時期は人間が内に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せもつことを理解できるようになってくる。さらに自己有用感や自己肯定感が顕著に高まる時期とも言える。その中

で社会貢献を行うことで他者に認められるような生き方や、自己有用感や自己肯定感に満たされたよりよい生き方をしたいと願う一方で、自己中心的な考えをもち、利己心だけで言動をしてしまう一面も見られる。このような利他心と利己心の狭間に生徒たちが、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えることができることに気付くことが、自己満足ではなく、他者とともに生きていこうというよりよい生き方につながっていくことを自覚させたい。

### (3) 生徒の実態 (略)

### (4) 資料について

本資料は、主人公の「ぼく」が自分の過ちを攻める気持ちと、言わなければ見つかることはない、友達との関係を壊したくないという「心の弱さ」の間で葛藤する内容である。また、中学生にありがちな状況を描いていることから、自分事として捉えやすい。この資料の主人公である「ぼく」を自分自身に投影することで、よりよく生きる喜びについて考えさせられる内容である。

主人公「ぼく」は、清掃中に落ちていた銀色のシャープペンシルを思慮無く自分の物にしてしまう。理科の授業中に友達の卓也のシャープペンシルをとった事を疑われた際に、「前に自分で買った」シャープペンシルだと嘘をつく。事態の発覚を恐れて、誰もいない教室の中で、誰にも見つからないうちに卓也のロッカーにそっと返す。その日の晩、もやもやした気持ちを抱えながらも、「ちゃんと返したのだから文句はないだろう」とふてくされていたところに卓也から電話が来る。卓也から電話で「君のことを疑ってごめん」と謝られる。その結果、「ぼく」は自分の過ちを責める気持ちと、言わなければ見つからない、友達との関係を壊したくないという「心の弱さ」の間で葛藤する。

本資料での、主人公の「ぼく」の言動や気持ちを中心に考えさせることでねらいに迫りたい。主人公の考えや言動に共感したり反発したりしながら、それぞれがよりよく生きることについてじっくりと考えさせたい。「ぼく」の言動や気持ちの変化を多面的・多角的に考えることによって、弱さを乗り越えて人間としてよりよく生きていこうとする道徳的実践意欲を育てていきたい。

## 3 指導方針

- ・道徳的価値を理解したり、葛藤したりしている生徒を見取りやすくするために事前に資料を読ませる。
- ・本時では資料を通読せず、あらすじだけの確認とする。
- ・道徳的価値に迫る際に、登場人物の言動を自分事として考える。そこで、「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」を問い、考えることで生徒が実感をもって理解できるように促す。
- ・「ずるさ」について考える場面では、自分事としてではなく、一般論として発問することで、生徒たちが発言しやすい環境を作る。
- ・「ぼく」の心の弱さや醜さ、葛藤する気持ちを表現してある部分から、強く気高く生きようと心情が変化する場面を捉える場面では交流を用いることで、多面的・多角的な考えに触れられるようにする。
- ・小グループでの話し合いは、まず一人一人の意見を発表させ、多種多様な考えに触れさせる。そしてその班の意見をホワイトボード等に短い言葉でまとめさせるようにする。その際、他者の意見についての疑問点や共感できる点も話し合わせることで、話し合いを活性化させる。これにより、一人一人の生徒が道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深められるようにする。
- ・小グループでの話し合いの場のあとに全体での意見交流の場を設定する。ホワイトボード等を使って根拠となる考えを述べるようにし、交流させながら他者理解を深め、多面的・多角的な見方や考え方へと発展させる。

・主人公「ぼく」の生き方を自分に投影することができ、自分自身が納得できる生き方をすることが大切であることについてワークシートに記入させることで考えを深めさせる。

4 校内研修とのかかわり (略)

5 本時の学習

(1) ねらい

心の弱さや、それに打ち克とうとする主人公の気持ちをとらえさせ、最後に主人公が心の弱さを乗り越えようとしている場面について話し合わせることで、よりよく生きていこうとする道徳的実践意欲を育てる。

(2) 準備 教科書、ワークシート、ホワイトボード

(3) 展開

過程	学習活動	主な発問 (○基本発問、◎中心発問) と予想される生徒の反応 (・) (期待される反応は_____)	時間	支援及び留意点
導入	1. 本時の学習テーマをつかむ。	今までにずるいことをしたり、ごまかせなかったり、きちんと謝れなかったことがあったかを問いかける。  〈学習テーマ〉 よりよい生き方をするためには	3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値を捉え、生徒の意識を道徳的価値に向かわせられるように、生き方に関する学習テーマを共有する。</li> <li>・時間をかけず資料のあらすじの確認に入るように留意する。</li> </ul>
展開	2. あらすじの確認をする。(人物相関図を用いる)  3. 一人で教室に戻り、卓也のロッカーにシャープペンシルを返したときの気持ちを考える。(個人で考える)  * 「ぼく」がどんな気持ちでシャープペンシルを返	○一人で教室に戻り、卓也のロッカーにシャープペンシルを返したときどんな気持ちだったでしょうか。 ・盗んだと思われたくない。 ・卓也に直接返したいけれど、返せない。 ・自分のしたことをごまかそう。	3分  5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に資料を読ませることで内容を把握させる。</li> <li>・あらすじの確認の際に「ぼく」の気持ちをとらえさせる。</li> <li>・後半の発問で時間を確保するために、時間をかけず前半の「ぼく」の心の弱さや醜さに共感させつつも心情を押さえる。</li> <li>・数名の生徒に考えを発</li> </ul>

<p>したのか、意見を交流する。</p>	<p>・仕方がなかった。 ・友達に本当のことは言えない。</p>	<p>表させる。</p>
<p>4. 卓也から謝罪の言葉を聞いたときの気持ちを考える。 (近くの人と話合い) * 「ぼく」の気持ちの変化を踏まえて考え、意見の交流をする。</p>	<p>○卓也からの電話の後、「ぼく」はどんな気持ちになったでしょう。 ・申し訳ない。 ・びっくりした。 ・自分が嫌だ。 ・本当のことを言おう。 ・正直に生きるべきだ。</p>	<p>5 分</p> <p>・発表させる前に「ぼく」の心の変化を押させる。 ・資料からフレーズを探すだけでなく、自分の言葉で話をするように促す。 ・数名の生徒に考えを発表させる。</p>
<p>5. 僕の行動から心の弱さを乗り越え、よりよく生きることについて考える。 (近くの人と話合い) * 「ぼく」の気持ちの変化を踏まえて考え、意見の交流をする。</p>	<p>○どのような思いが「ぼく」を卓也の家に向かわせたでしょう。 ・人のせいにはしてはいけないという思い。 ・嘘はついてはいけないという思い。 ・失敗を認め、謝ろうという思い。 ・自分の弱さに流されないという思い。 ・他者のことも自分のことのように大切にすること。 ・自分の気持ちに素直になる。 ・勇気をもって挑戦していく。</p>	<p>8 分</p> <p>・資料の「ぼく」が自分の心と向き合い、よりよい生き方をしようとしている言動を押さえさせ、道徳的価値について理解が深められるようにする。</p>
<p>6. よりよく生きる喜びについて考える。 * 「ぼく」の気持ちの変化を踏まえて考え、意見の交流をする。 (個人で考える) ↓ (小グループで話し合う) ↓ (発表) * 他者と議論する。</p>	<p>◎どうしてオリオン座の光がまぶしいくらいに輝き、とてつもなく大きく感じたのはなぜだろう。 ・「ぼく」を励ますため。 ・決心した「ぼく」の後押しをしているため。 ・自分もあの星のように明るく前向きに生きたいと感じたため。 ・嘘はついてはいけないということに気付いたため。</p>	<p>2 0 分</p> <p>・自分の考えを明確にさせるためにワークシートに記入させる。 ・話合いの場面では自分の意見を記入したワークシートを机にしまわせ、自分の言葉で話せるようにする。 ・交流を通して友達の意見に触れることでもの見方や考え方を広げ</p>

	<p>* 多面的・多角的に考える。</p> <p>* 道徳的価値の理解を深める。</p>	<p>・ <u>自分の決めたことをやり遂げようとする素晴らしさに気付いたため。</u></p>		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の意見を否定的に聞くのではなく、受容的に聞くように助言する。</li> <li>・ ホワイトボードに記入する際は、全体に投げ掛けたいな、この意見おもしろいなと思う意見を簡潔に書くように助言する。</li> <li>・ 発表の際にホワイトボードに記入したことを補足説明させ、黒板に掲示させる。</li> <li>・ 必要に応じて発問を補足する。</li> </ul>
終末	<p>7. 自分自身について振り返り、本時のまとめをする。</p> <p>* 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。</p>	<p>○今日の授業で考えてきたことやこれまでの自分の生活を振り返ってみて、感じたり考えたりしたことを書きましょう。</p>	6分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身が納得できるよりよい生き方について考えさせる。</li> <li>・ 数名の生徒に感想を発表させる。</li> </ul>

#### (4) 評価の視点

- ・ 「ぼく」の心境の変化を考えることにより、よりよい生き方についての理解を、自分との関わりで深められたか。
- ・ よりよい生き方について話し合うことで、よりよく生きることについて、多面的・多角的な見方ができていたか。

#### 6 板書計画 (略)